



決勝レポート

2016/7/17 Rd-3 富士スピードウェイ

天候：曇 気温：25℃ 出走台数：18台 (No64未出走)

観客数：16日(土)12,300人 17日(日)22,800人 合計35,100人

霧雨で迎えた早朝の富士スピードウェイは、フリー走行前には曇り空ながら時折青空も見られ、路面コンディションはウェットからドライへ。シーズンのターニングポイントとなる富士ハイスピードバトルは、ドライ路面でスピードとスピード、テクニックとテクニックがぶつかり合うレースとなるだろう。

ポールポジションからスタートのバンドーン選手は抜群の動き出し、しかし加速の伸びが悪く1コーナーでイン側へ並ばれ、行き場を失って4位にドロップ。野尻選手は、絶妙なライン取りで5台抜き。13番手でオープングラップを周回した。

100分の1秒を刻みながら、それぞれの争いを続けるバンドーン選手と野尻選手。14周目に1コーナーでスピンした車両がコース上に車を止めてしまったため、セーフティーカーが導入されると、このタイミングで各車続々とピットイン。バンドーン選手と野尻選手も給油作業のみでピットアウトするが、野尻選手の給油作業中に、ガソリン耐火カバーが車両の吸気口に吸い込まれ、そのままピットアウトさせてしまう。翌周に再度ピットインし、カバーを取り外したが、安全に車両をピットアウトさせなかったとして10秒ストップペナルティを課されてしまい、大きくポジションダウン。ポイント圏内を目指してプッシュするも届かず、13位でレースを終えた。

レース終盤、バンドーン選手はペースの落ちた前走車をオーバーテイクしようとするが、逆に後続に続けてパスされ6番手へドロップ。ホイールtoホイールのバトルを繰り広げるが、48周目の1コーナーでブレーキトラブルが発生しスピン。そのままリタイヤとなった。

40：野尻選手 13位 (HONDA4位)

予選、決勝と、流れを掴めなかったかなと感じます。とにかく予選が悪すぎた。路面コンディションの悪い状況下でパフォーマンスを発揮できない状態は以前からあり、改善に向けて様々な取り組みをしているのですが、今回は特に噛合わなかった。

明日は公式テストがあります。検証とともに茂木に向けたメニューを精力的に消化し、次戦茂木に強く速くなって帰ってきます。

41：バンドーン選手 リタイヤ

浮き沈みの大きな週末でした。初めての富士スピードウェイでポールポジションを獲得できたのはとてもポジティブなことです。ウェットコンディションでの速さもお見せすることができました。対してドライで迎えた決勝は難しかったですね。スタートは良かったですが、周りの車ほど加速が伸びなかったし、後半の3位争いでは表彰台も見える位置での接戦でしたがブレーキトラブルでリタイヤとなりました。とても残念ですが、今は次戦に向けて問題点を確実に解消することに集中します。